健健安 第１９１０号
平成３０年１月２５日

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長
豊 澤　隆 弘

インフルエンザの市内流行警報発令に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第３週（1 月 15 日～21 日）の定点医療機関当たりの患者報告数が「56.09」となり流行警報発令基準(30.00)を超えたため、1 月 25 日に市内にインフルエンザの流行警報を発令しました。

- ◆ 「56.09」は 1999 年 4 月の感染症法施行以降の報告で最も多い数値です。
- ◆ 全区で警報発令基準を超えています。
- ◆ 瀬谷区 90.29、泉区 86.71、神奈川区 62.20、鶴見区 61.20、保土ヶ谷区 61.17、南区 60.00 の６区で基準の２倍を超えています。
- ◆ 学級閉鎖や学年閉鎖を行った学校等は累計 223 校（内 141 校は第３週に報告）に上り、昨年の流行警報発令時と比較して約２倍です。
- ◆ １月以降に報告された高齢者施設や保育園での集団発生は 33 件、医療機関での院内感染事例は３件となり急増しています。

御多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関における感染防止対策を徹底するよう「別添」の対応について、院内に御周知くださいますようお願いいたします。

＜添付資料＞

1　別添「施設への持ち込み防止策を徹底し、感染拡大防止策を更に強化しましょう！」

2　横浜市インフルエンザ流行情報 9 号

横浜市健康福祉局健康安全課
健康危機管理担当
電話：045-671-2463

別 添

平成 30 年 1 月 25 日

1 月 24 日に横浜市はインフルエンザ流行警報を発令しました！
例年、流行警報（患者数の多い時期）は３月まで続きます。
施設への持ち込み防止策を徹底し、感染拡大防止策を更に強化 しましょう！

市内では学校や保育施設での小児の集団発生の報告が急増しています。また、高齢者施設での集団発生や医療機関での院内感染例の報告も続いており、対策強化が必要です。

1 持ち込み防止対策の徹底

（１）職員の健康管理の徹底（集団発生の多くは職員等による持ち込みが発端）

- ◆ **出勤前の検温の徹底**（**発熱者は勤務させず**に受診させる。）
- ◆ 発熱などの**体調不良時は出勤前に必ず管理者へ報告**するよう指導
- ◆ 無症状の職員も含めて**全員のマスクの着用を徹底**
- ◆ **１ケア１手洗い・手指消毒**、**使い捨て手袋の使用の徹底**

（２）面会に関する注意事項

- ◆ **面会制限の実施**（**小児 及び 有症状者**[**熱・かぜ症状**]**の面会は禁止**）
- ◆ **入口付近の目立つ場所に掲示を行い、面会者にマスクの着用、手洗い及びアルコールによる手指消毒**を積極的に勧奨する。

2 発症者の早期把握 及び 感染拡大防止

（１）入所者や通所者等の健康管理の徹底

- ◆ **検温を毎日確実に実施**または回数を増やす。（**発熱者の早期把握**）
- ◆ 入所者・通所者の手洗い、咳が出るときのマスク着用の徹底
- ◆ 発熱等の**有症状者は、早めに個室隔離等**の感染拡大防止策を実施
- ◆ 発熱者はインフルエンザを疑い早めに受診させる。

（２）集団発生の早期把握と迅速な対応

- ◆ 患者の発生に備え、施設内での有症状者の情報共有及び報告手順、緊急時連絡体制を確認
- ◆ インフルエンザ陽性者が発生した段階で、フロア内の**入所者等及び職員に対し、添付文書に基づき適正な日数の抗インフルエンザ薬の予防投与を検討**
- ◆ 患者が**複数名発生した場合**には、直ちに**個室等への隔離、面会禁止、新規受入中止、イベントの中止、スタッフ及び入所者の動線固定**（他のユニット、フロアへの**原則移動禁止**）
- ◆ **環境消毒の徹底**（職員や入所者等の共用スペースや居室の**手すり、電気スイッチ、ドアノブ、エレベーターの操作パネル、蛇口、ベッド柵、サイドテーブル、カート**等の多くの人が接触する箇所の消毒）

（３）感染拡大要因の分析、再発防止策の検討

- ◆ 施設に**持ち込まれた経緯、感染が拡がった要因**を分析する。
- ◆ 分析結果を組織全体で共有し、**再発防止に向けた対策強化**につなげる。

横浜市健康福祉局健康安全課
電話：045-671-2463

横浜市インフルエンザ流行情報　9 号

横浜市衛生研究所　／　横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

インフルエンザ流行警報が発令されました。

【概況】

横浜市全体の第 3 週(1 月 15 日～21 日)の定点※1 あたりの患者報告数は、56.09 となり、流行警報発令基準値(30.00)を上回りました。

年齢別では、15 歳未満の報告が全体の約 7 割を占めており、また、学級閉鎖等の報告が、第 3 週は小学校・中学校を中心に 141 件、患者数 2,330 人と、急激に増加しています。保育園での集団発生の報告も増えており、お子さんがいるご家庭での感染予防が重要です。

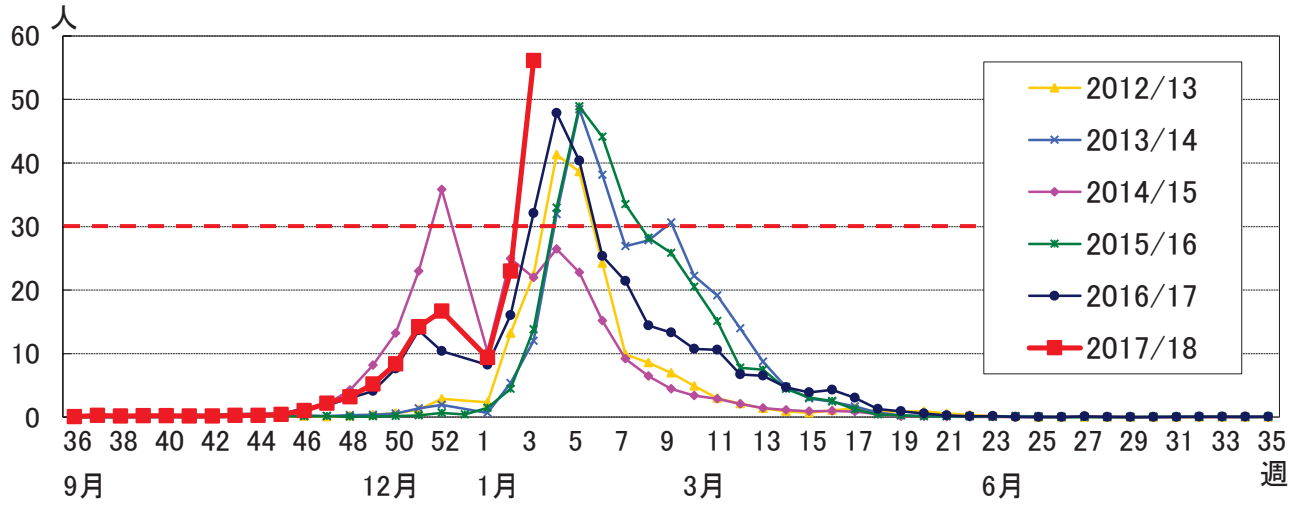
また、病院や高齢者施設等での集団発生の報告も続いています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

迅速診断キットの結果は、第 3 週では A 型 33.1%、B 型 66.6%と、さらに B 型の割合が増えており、流行初期と逆転しています。

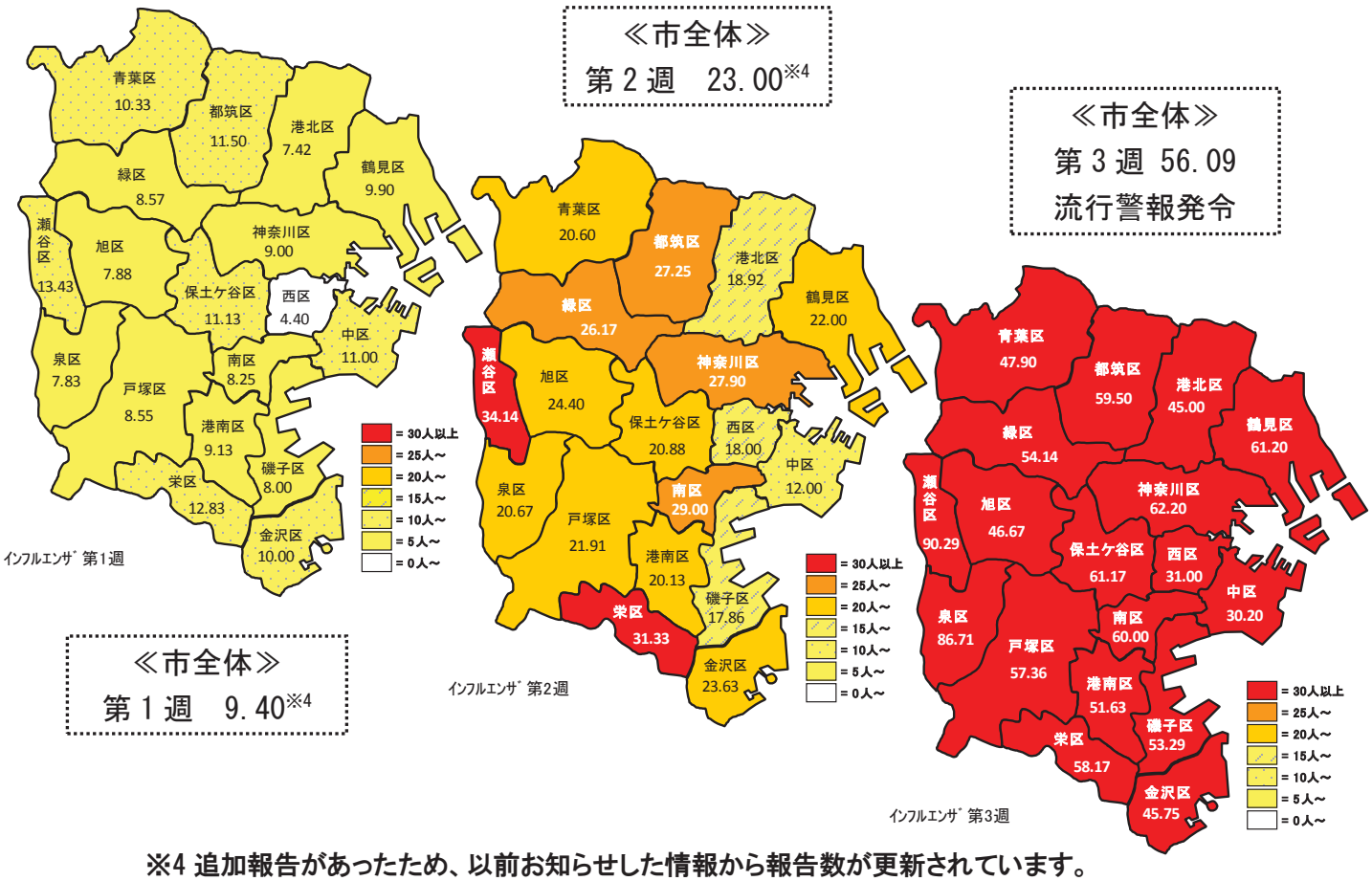
インフルエンザの本格的な流行期に入ったため、正しい手洗い※2 等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策※3 が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 横浜市保健所ホームページ(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)
※3 市民向けインフルエンザ予防チラシ(横浜市)

1　市内流行状況：市全体の定点あたりの患者報告数は、第 3 週(1 月 15 日～21 日)で、56.09 となり、流行警報発令基準値(30.00)を上回りました。昨シーズンも第 3 週にて警報発令されていますが、定点あたりの報告数は昨シーズンを上回っています。



2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況（塗り分けの数字は定点あたり報告数）

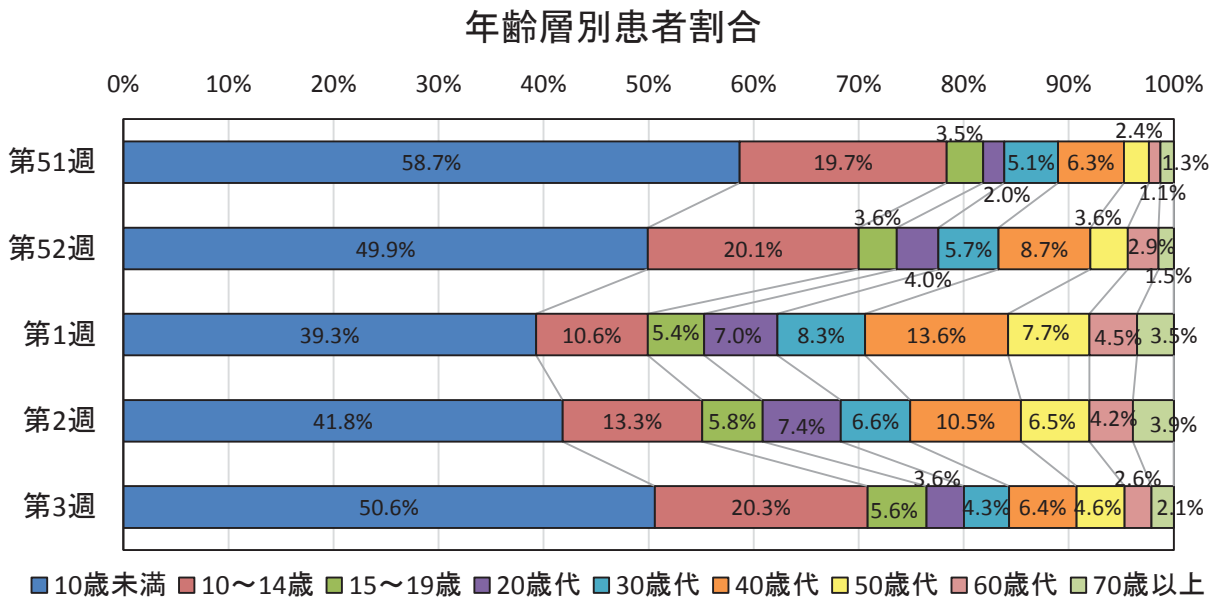


※4 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

第 3 週にて、市内全体で定点あたり 30.00 を超えたため、流行警報が発令されています。流行警報は、解除基準値（10.00）を下回るまで続きます。

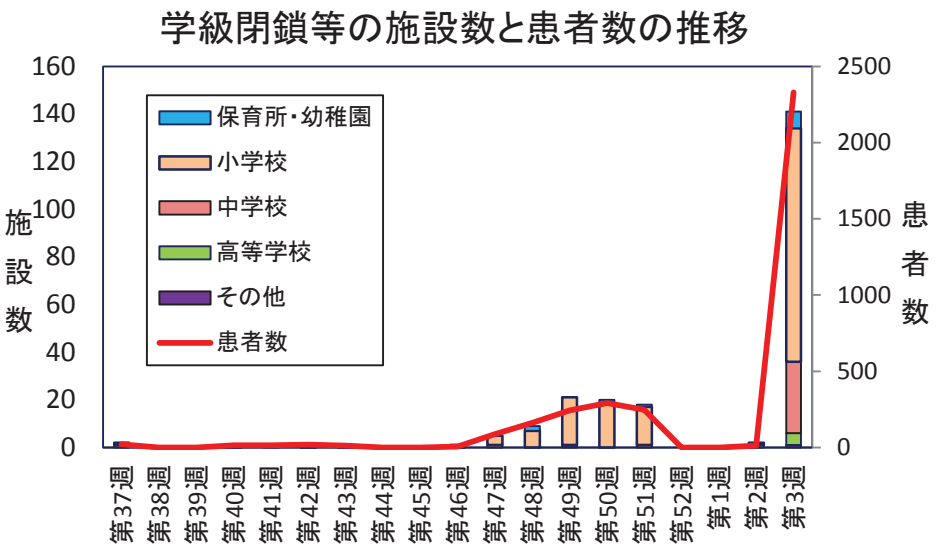
昨シーズンは第 3 週に定点あたり 32.23 にて流行警報が発令され、第 12 週（2017 年 3 月 20 日～26 日）に解除されています。

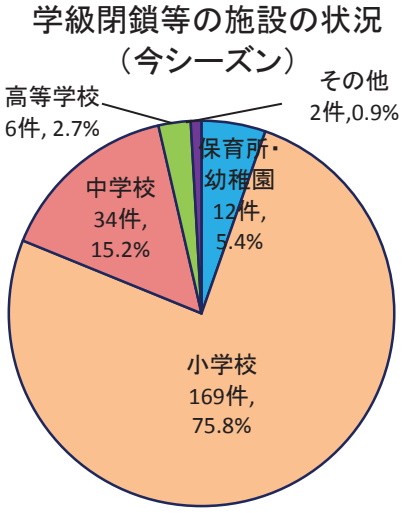
3 年齢層別集計：第 3 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 50.6%、10 歳以上 15 歳未満が全体の 20.3%を占めており、15 歳未満が全体の 70.9%を占めています。また、60 歳以上は全体の 4.7%となっています。冬休み期間のため小児の感染が減少していたものの、授業開始により小児の感染が増加した可能性があります。



4　市内学級閉鎖等状況：第 3 週は学級閉鎖等の報告が急増し、141 件（学年閉鎖 18 件、学級閉鎖 123 件）の報告がありました。内訳は、保育所・幼稚園 7 件、小学校 98 件、中学校 30 件、高等学校 5 件、その他 1 件です。

今シーズンの第 3 週までの報告は累計 223 件、患者数は延べ 3,458 人で、施設の割合は、保育所・幼稚園 5.4%、小学校 75.8%、中学校 15.2%、高等学校 2.7%、その他 0.9%となり、中学校からの報告の割合が増えています。

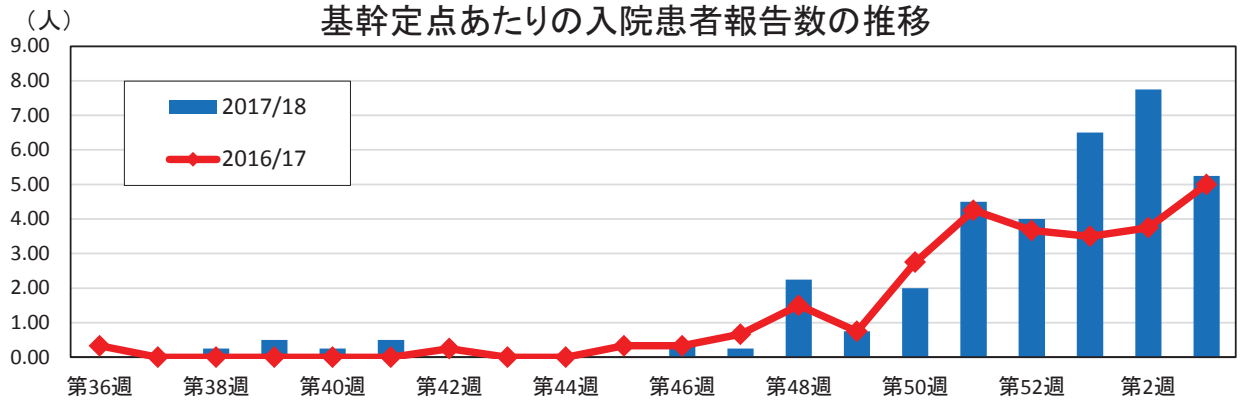


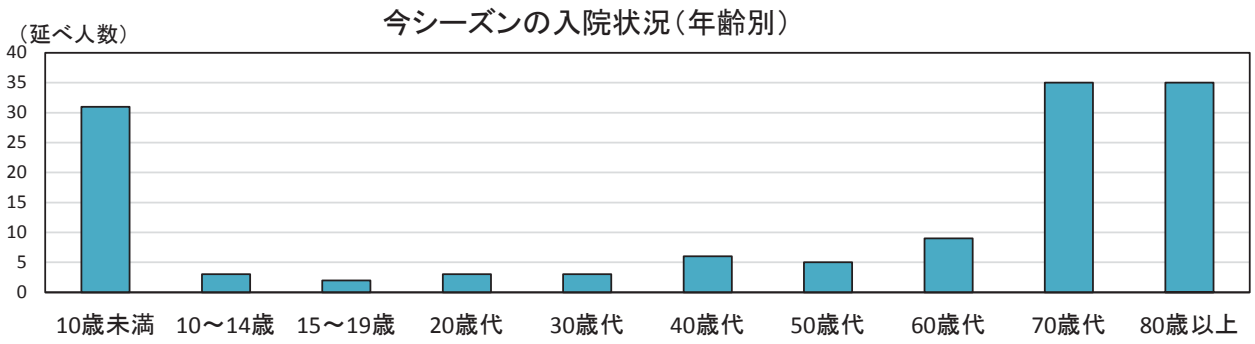


5　入院サーベイランス：市内基幹定点医療機関※5 におけるインフルエンザ入院患者は、第 3 週は 21 人の報告があり、累計 132 人※4 となりました。うち、15 歳未満が 34 人、60 歳以上が 79 人となっており、小児と高齢者の報告が多くなっています。

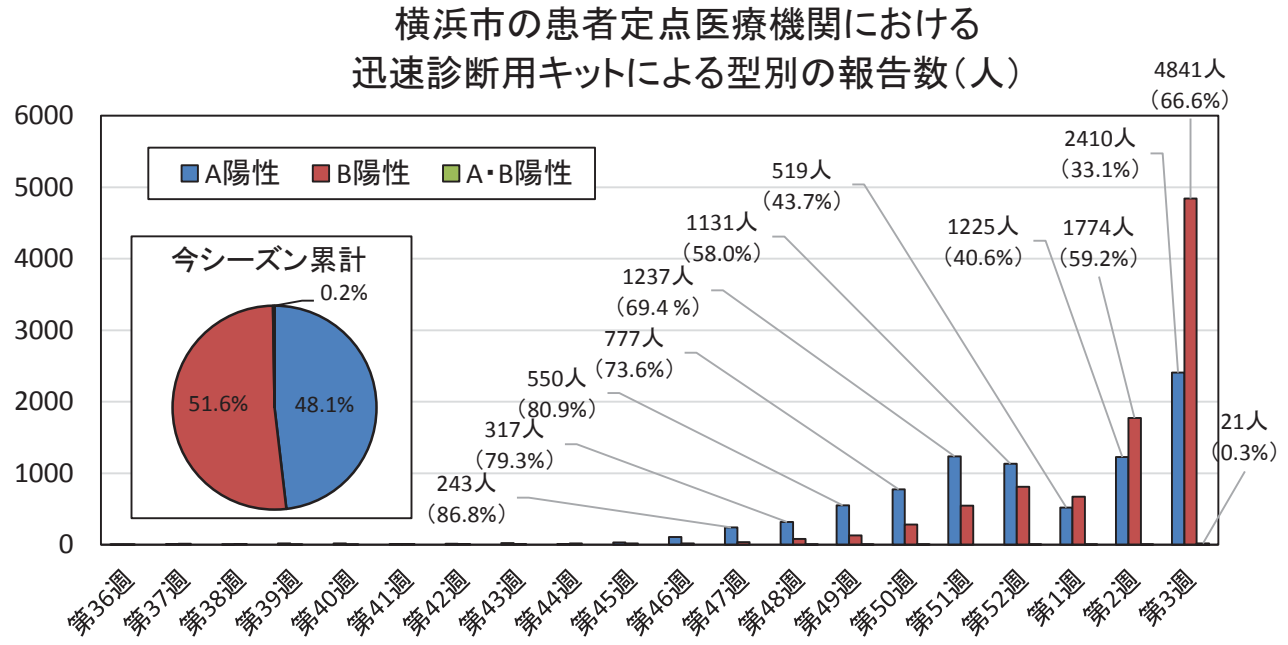
入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎やインフルエンザ脳症が疑われる入院患者は、第 3 週では 7 人の報告がありました。

※5 基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。





6　迅速キット結果：これまでの経過では A 型が多く報告されてきましたが、第 50 週頃より B 型の割合が増え始め、第 1 週で逆転しています。第 3 週の迅速キットの結果では、A 型 33.1%、B 型 66.6%、A・B 型ともに陽性 0.3%と、B 型の割合がさらに増加しています。今シーズン累計は、A 型 48.1%、B 型 51.6%、A・B 型ともに陽性 0.2%となっています。



7　市内病原体検出状況：市内では病原体定点※6から AH1pdm（38 株）、AH3（22 株）、B（山形系統）（46 株）が分離・検出されており、主に AH1pdm と B（山形系統）が分離・検出されている状況です。なお、B ビクトリア系統は市内にて分離・検出されていません。

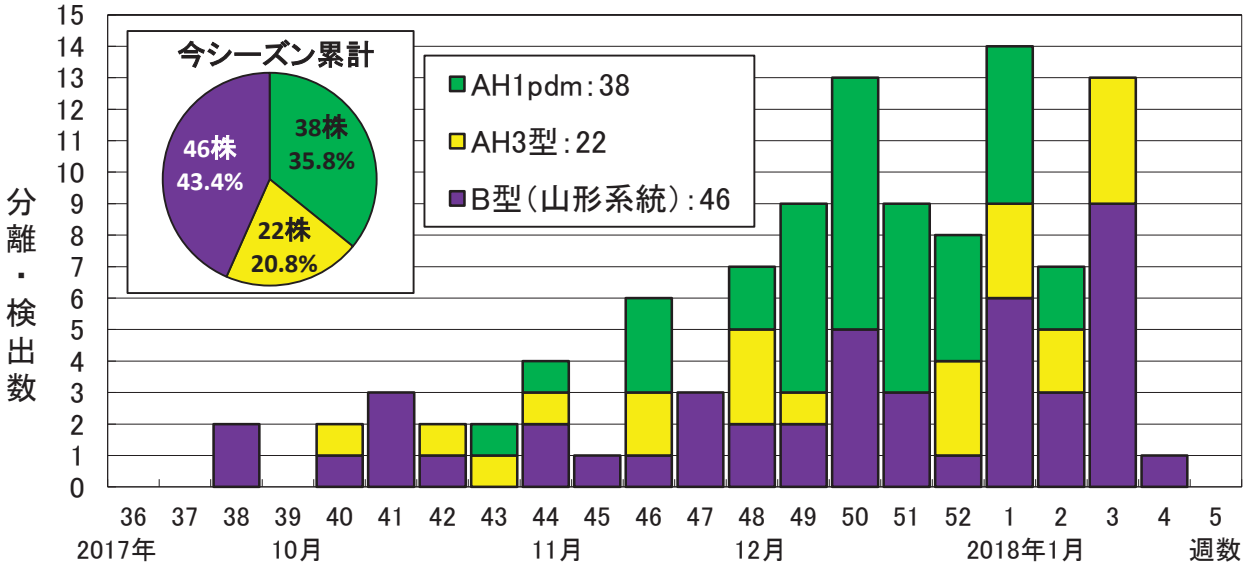
全国でも、主に AH1pdm と B（山形系統）が分離・検出されています※7。

※6 病原体定点：採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※7 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（国立感染症研究所、1 月 19 日作成）

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

（2018 年 1 月 24 日現在）

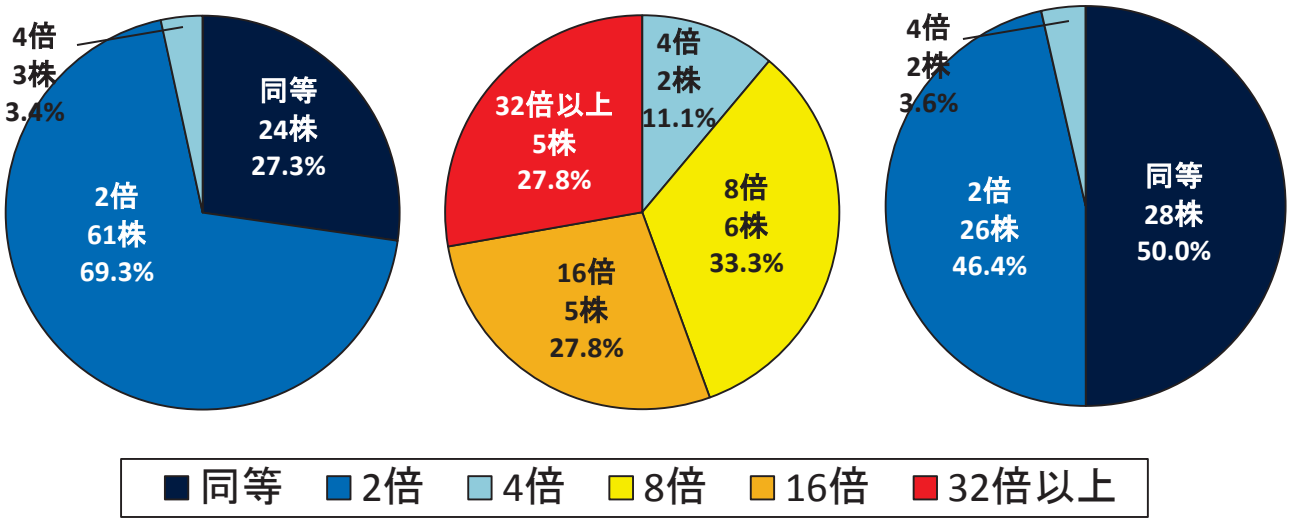


8 分離株の抗原性解析：市内で分離された株（細胞培養した 162 株、1 月 24 日現在）のワクチン株との抗原性解析（HI 試験）を実施しました。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、AH3 は、18 株のうち 16 株が 8 倍以上で、AH1pdm（88 株）とＢ山形系統（56 株）は、すべて 4 倍以内となっています。これは、AH3 の 94%が 8 倍以上で、AH1pdm およびＢ山形系統のすべてが 4 倍以下であったという国立感染症研究所の結果※8 と矛盾しないと考えられます。

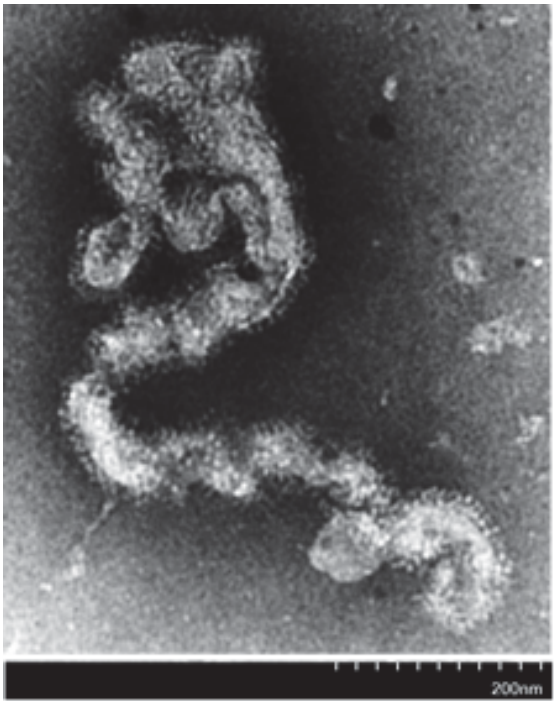
※8 インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹　2017 年 12 月 28 日（国立感染症研究所）

（参考値）市内で分離された株の抗原性解析

AH1pdm 抗原性解析（88 株）　　AH3 抗原性解析（18 株）　　Ｂ山形系統抗原性解析（56 株）



インフルエンザウイルス（AH3 型）の電子顕微鏡写真（3 万倍）



撮影：
横浜市衛生研究所

※参考リンク　近隣自治体の流行状況　○神奈川県　○川崎市　○東京都
全国の流行状況　○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】　横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045（370）9279
横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045（671）2442